

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第140号

nanae historical
museum collection

ななえ古写真物語 VOL. 140

ケブロンと麻

七重官園写真帖より
明治10年頃
桜町地区



「七重の開拓使農園を視察する。そのアメリカ式農業の試みは、あまり期待が持てない。何をやっても機構を作り、これに申し掛かって金を使い、怠け者の役人に名目だけの職を与える限り、この人達とは全く一緒に仕事することはできない... (中略)」と、明治期の七重官園について、辛口の苦言を呈したのは、北海道開拓使の最高顧問であるホーレス・ケブロンである(『ケブロン日誌 蝦夷と江戸』1873年9月1日の記載より)。100年以上も経ても、この文章(もっと辛辣な部分は割愛しているのだが)を目にする度に「ケブロンさん、ごめんなさい」という気持ちになる。

ケブロンは、この前年に七重官園を訪れ、土地を起こして整地することや、雑草を防ぐために牧草を植えることなど、細かな指示をしたのだが、それより先に、役に立たない余分な人(ケブロン談)たちのために、建物を建てることを優先する、日本流のやり方(お役所仕事)を批判したのだろう。

まったくもって、ぐうの音も出ないほど、的を射た意見であるが、そんなケブロンが七重官園で唯一称賛したのが、麻の栽培と作り方だったという。

「旧式な方法で、器用に麻を扱ひ、繊維をとるが、これをわかるように説明するのは容易ではない。下側の葉が枯れて落ち始めると、麻を刈り取り、次に箱の中で蒸す。...(中略)」とその後、繊維をとる方法や熟練工への報酬などについて触れている。もしかしたら、ケブロンは、情けで七重官園の良いところを見つけようと必死だったのかと、あらぬ詮索をしまいそうになるのだが、酷評だけでなく救いが記されている所に、わずかな希望が残されている気がしてならない。パンドラの箱を連想してしまうのは、私だけではないと思う。

そんな七重官園での麻の栽培状況を写した一枚が、上の写真である。もう刈り取ったようにも見え、後方には男性2名の姿がある。畑は現在の桜町にある「魚長」というスーパーのあたりと思われ、2棟の麻小屋を設けたという。

ちなみに、ケブロンがいう旧式の栽培とは、日本式なのだろうから、熟練の者がいたところで不思議ではない。だから称賛は、勤務態度ではなく、経験に培われた技術へ与えられたと考える。建物の建設を優先し、実利をおろそかにしていると酷評された七重官園。改めて、その歴史に現在を問う。

5日 夜の博物館第2回の講座は、『江差の風習・風俗』と題し、講師に江差町教育委員会の宮原浩氏をお迎えしました。町の人口は7500人、面積は110km²。海から広がっていった町、漁より交易で栄えた町、江差の歴史文化。近隣の町のことなのに、私たちは、瞬時の視覚的な情報を受け取ることが多く、実はあまり知りません。ゆっくりお話を聞き、資料をみたりすることで、より理解が深まった今回の講座。「日々の生活リズムに根差して人々が暮らしを楽しんでいる生活文化」と江差を称した言葉が何より印象的でした。



22日 この日は、ジュニア探検クラブで、前回中止になった登山を行う予定でしたが、残念ながら雨予報のため、再び中止。そのかわり、縄文時代を学びながら、勾玉づくりに挑戦しました。材料は柔らかい滑石です。小刀で、ある程度、勾玉らしい形にしたのち、紙やすりを使って磨いていくと、削れた滑石の粉が大量に生まれ、その中から少しずつ光沢をおびてくる勾玉の姿が現れます。時間が足りなく、最後までできなかった子もいましたが、皆夢中になっていました。



28日 久しぶりに快晴となったこの日、親子で一緒に参加できる昆虫採集教室を開催しました。網の使い方を講師の先生から学んだあと、東大沼地区まで移動して、採集開始です。ちょっと大きめの網に、子どもたちは苦戦。むしろ大人の方が夢中になって、チョウやトンボを捕まえていたかもしれません。午後からは、標本づくりです。針を使った細かな作業に戸惑いながらも、丁寧な指導によって、チョウやトンボの標本が出来上がりました。虫たちに直に触れ、命の躍動を感じる時間となったのなら、嬉しいです。

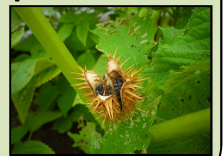


1	日	企画展示最終日
2	月	
3	火	
4	水	夜の博物館
5	木	
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	
14	土	
15	日	
16	月	敬老の日
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	ピチャリ141号発行予定
21	土	
22	日	
23	月	秋分の日
24	火	
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	ジュニア探検クラブ
29	日	
30	月	

9月の休館日はありません。

奇怪

写真は野草園のチョウセンアサガオ。鋭い刺の果実から覗くのは、黒いタネ。白い大きな花を咲かせるが、根も葉も花にも毒があります。



編集後記 ~tawagoto~

8月に入ったとたん、恐ろしい暑さが続いている。とは言っても、北海道なので30度そこそこののだが、連日となると、疲れが蓄積されていく。一方で、暑さをものともしない花壇の雑草が、驚異的な高さになっていて、メインの花に日陰を提供する始末。これはまずいと、プチプチと引き抜いたのだが、わずかな作業でも汗がにじむ。まわりでは、やけに元気にツクツクボウシが鳴いていた。まだまだ、暑い日々が続きそうだ。（やまだひさし）

Pichari

~ピチャリ~

第140号

令和元年8月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp